

オリジナル創作仏壇に注力

社内に彫刻・塗り工房 池田大仏堂（金沢）

池田大仏堂社長の池田典明氏は昭和二十五年生まれ。大学卒業後に家業である池田大仏堂に入社したが、若いときは仏壇店の仕事は好きで無かったという。

高校時代はサッカー部、石川県の高校サッカー代表に選ばれるほどで、大阪の大学に進学後は山岳部に所属、「あまり好きではなかった家業」ではあるが実際には十八、十九歳の時から家業を手伝い始めている。

当時、神戸の百貨店で開催された石川県物産展に仏壇を出品していたので手伝いに行ったり、札幌デパートに販売に行っていた。

「当時は小売りというよりも卸も多かったんです」と池田社長はその当時から「気がないと売れない」と注意されました。その時から気、自分の元気が力を充実させることに注意を払うようになりました」と語る。

買いにきたし、池田社長は当時多かった仏壇卸で北海道を営業で回った。「札幌の物産展で売れなかつた仏壇を卸で回るんですが、売れないこともあり、その時にはお客様から『気がないと売れない』と注意されました。」

北海道では同じ全宗協の会員に納品をお願いすることもあり、今でも太

いパイプを持つ。1850年創業の池田大仏堂の創業地は金沢市の中心武蔵町、昭和五十年に現在の金沢別院前の通りに出店した。ここは仏壇店、法衣店が多く、門前仏壇通りになっている。

武蔵町の店は1990年から香り商品やロールクを扱う専門店「香屋」となっており、現在は改装中。金沢の昔ながらの町屋の風情を残しながら香席なども設けることに

別院前の店舗二階には塗りと彫刻の職人を擁しており、新作仏壇や修理仏壇の仕事が行われている。

店内に展示されている仏壇の中には、金沢の伝統工芸である漆芸を駆使し、沈金で加飾した仏壇など魅力的な仏壇を数多く持ち、構造的に工夫されたオリジナル仏壇も展示されている。

社内二階には塗り工房、彫刻工房を持ち職人が次々と仕事をこなしてゆく。取材時には塗り工房では大型金仏壇の塗り直しが行われていた。

伝統的工芸品指定を受ける産地はどこも厳しい時代の中にある。これまでの厳しさは主に販売難であったが、現在では製造難という厳しさを迎えている。

修理を含めた需要は、一定量がこれからも確保できるはずであるが、職人の高齢化が各産地とも問題になっている。

池田大仏堂の場合は、オリジナル仏壇の開発や全国での百貨店販売などを通じて、金沢仏壇販売に努力する。結局職人を育てるのは「仕事」であり、販売力のある仏壇店の存在が「職人の仕事」を生み出す。

香屋という販売チャネルも持つ池田大仏堂の今後に期待したい。

◎池田大仏堂 金沢市安江町五十七 TEL〇七六(二二二) 五五五〇 FAX〇七六(二二二) 五二二一



池田大仏堂 池田典明社長 後ろに並ぶのは創作金沢仏壇と伝統的な金沢仏壇



店内二階の漆場 奥は乾燥ムロ 取材時には修理仏壇が複数本



店内の彫刻工房